

全買連ニュースレター 第8号

ZENBAIREN News Letter

2018/2/28

文責、事務局長草野

全国の活動より

ー 岡山発 ー

「バームクーヘン」が奏でる年輪の響き

山陽木材新聞 158 号に次の記事を見つけました。

岡山県南木材業界新年互礼会が1月13日に開催され、宴半ば、バームクーヘン(サクソ:草野安夫氏、ギター:尾高健一氏・山下稔氏・坂本雅文己氏、キーボード:田中恭子氏、ドラム:横田直人氏、ヴォーカル:清水信三氏・増田安泰氏)によるバンド演奏……

そういえば、前日の東京での理事会の際に草野常任理事が「明日演奏会でこれから帰って練習です」とおっしゃっていたのはこのことだったのですね。早速記事にすべく、岡山の事務局を介して取材しました。

きっかけは、2016年、隣室で開催されていた電気事業組合新年会での組合員による演奏に感化され、翌年の新年互礼会での演奏を目標にその年の秋に結成されたとのこと。

バンドメンバーは、趣味で楽器を楽しんでいた仲買組合員5名、市場1名にその時々でヴォーカルが加わりすべて業界関係者で木(気)心知れた仲間ようです。

公私とも多忙な中、毎火曜日の夜、メンバーの事務所2階で練習しているとのこと。演奏するジャンルは、歌謡曲、ポップス、ジャズ。互礼会での評判は、「上手下手は別として(笑)同じ仲間のバンド演奏ということで暖かくみてくれています」(事務局談)とのこと。全買連常任理事の草野さんは、中学、高校、大学とブラスバンド部でサクソを担当されていたようで、私としては第50回全買連総会岡山大会で是非披露してほしいのですが。



左から2人目が草野さん

一東京発一

東京木材市場買方組合東友会がWOODコレクション「モクコレ」2018に出展

東京木材市場買方組合（早川金光理事長）の若手の集まりである東友会が多摩産材利用拡大フェア展示会に出展した話題は第7号で取り上げました。これに引き続き、WOODコレクション「モクコレ」2018にも出展しました。

モクコレは、今回が3回目、木材の大消費地である東京でのさらなる利用拡大に向けた日本各地の地域材を活かした建材や家具などの製品展示会であり、東京都の呼びかけに全国33道府県324企業・団体が応じて東京ビックサイトで開催されました。

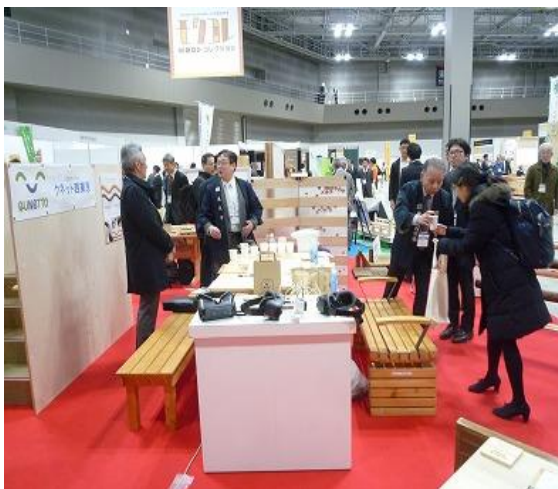
展示エリアには、多摩産材をはじめとする各地の魅力的な木材製品が並ぶ展示ブース、全国各地のいっぴん（一品、逸品）が集結した展示コーナーが設けられ両日で4千人の来場者で賑わいました。

東友会の展示は、東京都の展示コーナーの一角に、東京都森林組合、細田木材工業株式会社、株式会社オムニツダ、株式会社クネットさんとの川・上川下が連携した共同展示となりました。

東友会は、オフィス・各種移設建築や家具・什器など非住宅への利用拡大をターゲットに多摩地区の森林や伐採の様子、原木市場、製材加工、木材市場、材の活用事例などのDVD映像と360°VR映像で川上から川下までの流過程を放映し、多摩産材が安心安全な木材であることをアピールしました。DVDビデオはチェーンソー伐倒や製材所の様子に加え、多摩産材の使用事例を多くするなど工夫が加えられ、VRは4Kカメラを使い森の臨場感を体験できるように編集されていました。

木材の被写体認識アプリを使ったパフォーマンスは、NECさんと共同開発中のアプリで、あらかじめ登録した木片をタブレットで撮影するとその木片の樹種名や樹種特性、用途、産地情報が瞬時に検索できるもの。木片に書いた「木」偏と「神」などの傍の組み合わせのパズル形式の読み方、「檜」や「榕樹」などの読み方や樹種の特徴、花、関係する歌が出てくるもの。いわゆるIoTの一種です。今後、この被写体認識を使った木育、商品検索に活用することとしています。

多摩産材の時もそうでしたがこの展示会でも木材利用の拡大には川上から川下の連携が重要である事、木材流通業界も新たな技術を駆使してエンドユーザーとのつながりを強めることが不可欠であることが改めて確認できました。東友会は、今後、組織力を高めて木材利用推進に果敢に挑戦します。都買連（全買連）事務局は東友会を全面支援（心と体のみ、お金は別）します。



中央に紅茶コーナーを設けました



DVDの映像と音で集客



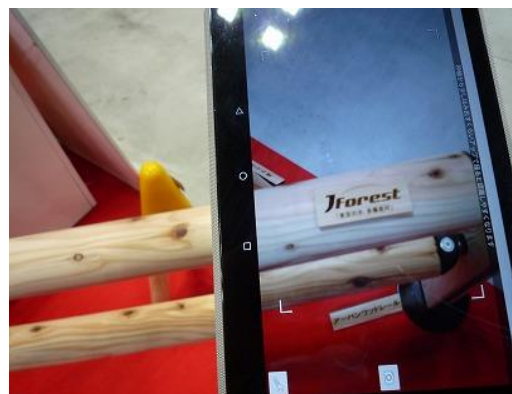
「きえすぎくん」をディスプレイに



VRは森の中を再現



被写体認識アプリ「木育タイプ」
木偏の漢字をタブレットで撮影すると・・・



「商品認識タイプ」
商品のロゴを撮影すると・・・



木片に書いた漢字の偏と旁で遊ぶ「くつつ木くん」と難読漢字

—東京発—

都買連傘下の東京木材買方組合（早川金光理事長）では、毎年東京都の助成事業で江東区の小学校を対象に木工教室を行っています。

今年は、2月7日、10日、14日に豊洲北小学校と数矢小学校の5年生、6年生を対象に多摩産材を使った宝箱の制作指導を行いました。

木工教室は、挨拶、指導者メンバーの紹介後、東京の森林が多摩地区に沢山あり、そこから生産される木を使うことで東京の森が元気になるというストーリーのDVD「東京の森を活かそう」—東京の木 多摩産材—を放映しました。また、パンフレット「木材を使って森を元気にしよう」、東京都提供の育樹祭グッズとパンフレットを配付したあと材料を配り、組立方を説明しながら製作にはいりました。途中、金槌の上手な使い方などを教え、メンバーが机上を回り、生徒の個別指導、補助を行い完成させました。10日は、学校訪問の日で

あったため途中から保護者も一緒に作成する姿も見られました。最後に、メンバーの挨拶、生徒からのお礼の言葉で木工教室を終了しました。



DVD を放映して木を使うことの大切さをアピール



少し難しかった組立



クギは立って打つと曲がりにくいよ



多摩産材宝箱完成

—全貫連の動き—

①第3回全貫連理事会

1月12日、アパホテル東京潮見で第3回全貫連理事会が開かれました。

当日は、早川会長の挨拶の後、林野庁宮澤木材産業課長（1月11日付で中部森林管理局長）からご挨拶と、林野庁の木材利用拡大の取組みの視点を分かり易くお話しいただきました。その後、牛尾木材流通課長補佐に30年度林野庁予算について説明いただき地方情勢を交えて意見交換をしました。

理事会の議題は、会長、副会長、常任理事の職務執行状況、第49回、第50回通常総会開催地の件、グループ共済更新結果の件について審議いただき、事務局提案どおりとなりました。

この中で、総会開催地については、平成31年度の第50回の岡山開催まではこれまでどおりの持回りとして、第51回の東京大会までに、その後の開催方法を経費節減、組合員の要望を踏まえて決定することにしました。

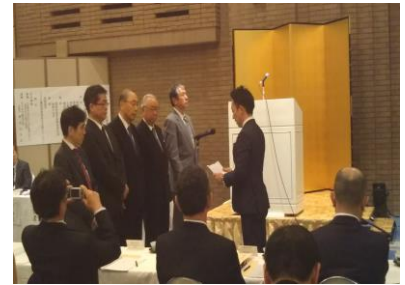
②JAS 展表彰式

第45回 JAS 製材品普及推進展示会入賞者の表彰式が2月8日、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催されました。今年の農林水産大臣賞には下記の4工場が選ばれました。

おめでとうございます。

農 林 水 産 大 臣 賞

県名	受賞工場名	郵便番号	所在地	電話番号	出展市場
岡山県	山下木材株式会社 製材工場	719-3203	岡山県真庭市富尾 218	0867-42-1100	株式会社津山総合木材市場
岐阜県	東濃ひのき製品流通 協同組合 第二工場	509-1113	岐阜県加茂郡白川町 三川 1539	0574-72-2577	株式会社東海木材相互市場
岡山県	牧野木材工業株式会 社 本社工場	719-3205	岡山県真庭市草加部 288 番地 8	0867-42-4321	株式会社東海木材相互市場
鹿児島	㈱さつまファイノウ ッド かごしま材 JAS 製品流通センター	899-4317	鹿児島県霧島市国分 上野原テクノパーク 1247-23	0995-73-8186	株式会社伊万里木材市場



謝辞を述べる受賞者

このほか食料産業局長賞 12 工場、林野庁長官賞 16 工場、主催三団体会長特別賞 3 社
優良開催市場への感謝状 3 社が表彰されました。

また全買連会長賞を下記の 8 工場に授与しています。

<秋田> 東北木材(株)製材工場 <富山> ウッドリンク(株)製材事業部工場
<岐阜> 桑原木材工業(株)金山工場 <大阪> 越井木材工業(株)本社工場
<宮崎> (株)北篠 製材工場 <大分> (株)ネクスト本社工場
<熊本> 松本木材(株)荒尾工場 <宮崎> 吉田産業(株)吉田製材工場

一全買連今後の予定一

- ①第 4 回理事会 平成 30 年 3 月 23 日(金) 於 大阪木材仲買会館
- ②平成 30 年度第 1 回理事会 平成 4 月 13 日(金) 於 神戸ポートピアホテル
- ③第 2 回理事会・第 49 回総会 平成 30 年 5 月 25 日 於 神戸ポートピアホテル

木材利用事例

モクコレの写真の中でも取り上げた木目を活かした木製ホワイトボード「きえずくん」を紹介します。
このボードは特殊塗装でホワイトボード用のマーカーで書いて消せる優れものです。
東京新木場にある細田木材工業株式会社が製造販売していてサイズも豊富、地元の木で造ることも可能です。
この製品が、全国の学校、官公庁、研修機関、オフィス会議室で使われるようになって欲しいものです。お問
合せは下記へ

〒136-0082
江東区新木場 2-5-3
細田木材工業株式会社
TEL 03-3521-8701
FAX 03-3521-8708
E-mail seisan@woody-art-hosoda.co.jp



学校に持って行くと子供たちが離れない「きえずくん」

編集余話

今年の冬は、黒潮大蛇行とラニーニャ現象で、36豪雪や平成18年豪雪に匹敵する豪雪となりました。

寒波もことのほか強く、北海道では-30度越えもあったようで、山中では木材の欠点となる「凍裂」の音が響いていることでしょう。

北海道旭川に勤務しているとき、相当に冷え込んだ朝4時頃になると、アパートで「パーン」という銃声のような大きな音が響き、昨夜からの酔いで爆睡しているにもかかわらず発砲事件かと飛び起きたことがたびたびでした。職員に聞くとアパートの鉄筋が寒さで縮み折れる凍裂の音とのこと、森の中の凍裂音は聞いたことはありませんが想像以上の大きな音でしょう。凍裂は樹幹に縦の裂け目ができるもので、



スギの凍裂

岐阜県森林研究所研究レポートより

発生メカニズムは完全には解明されていませんが、樹木の中の水分が冬期間の低温で凍結し樹幹に裂け目のできることが原因の一つとされています。北海道のトドマツに顕著ですが広葉樹や本州のスギでも発生していて50年生以上の利用価値の高い一番玉に発生するので材の利用価値が下がり経済的な損失が大きくなります。また近年林業を取り巻く経済状況の変化や森林に対する環境保全などの役割重視などのため長伐期施業が推進されていますが、施業の長伐期化では凍裂による影響が問題とされています。何年後かに今年の寒さによる凍裂が話題になるかも・・・。

トウネズミモチ

全買連事務局の近くの新木場運河沿にトウネズミモチが繁殖してどんどん増えています。

トウネズミモチは明治初期に到来したとされ、実が鼠の糞に似ていて中国から来たことからこの名前が付いています。大気汚染など環境適応力が強いので公園緑化などに利用されてきました。

近年、急速に日本各地の開けた環境に適応して広がっているため、侵略的外来樹木としても注意が必要であり要注意外来生物に指定されています。特に、在来種のネズミモチとの交雑もあって在来種を駆逐する勢いで増えています。ヒヨドリ、ムクドリなどの鳥による種子散布（黒くて大量の果実を実らせ散布者を引き寄せる）で生育範囲を広げているようです。秋から冬にかけて観察してみると秋の終わりに大量の黒い実を付けていますがまだ堅く鳥も寄りつきません。他の実が食べ尽くされた真冬になると熟し、ヒヨドリが盛んに食しています(写真)。この戦略でトウネズミモチは方々に運ばれていきます。鳥は、食べものを長い間、体内に残しては飛ぶのに不利です。せいぜい30分程度とされています。ヒヨドリの飛行速度は時速60kmなので食べたところから30kmの範囲に糞をします。こうやってどんどん勢力範囲を広げているのです。ちなみに在来のネズミモチは、生け垣などに利用されてきましたがクチクラ層が厚いので葉の裏面から葉脈が透けて見えないのが特徴です。どちらも果実は女貞子（じょていし）という生薬で、強壮作用があるとされています。



皆様の地域の話をお待ちしております。